

ここ四半世紀にわたるグローバル化の進展、更には情報分野における急速なイノベーションは世界に様々な変化の動きをもたらしています。例えば、政治・経済面で存在感を高める中国とアメリカとの新たな対立構造、反グローバリズムや保護主義的な政策が出現する一方、GAFA (Google、Apple、Facebook、Amazon) が主導する情報やデータを活用したビジネスモデルは、経済の仕組みや社会の価値観、更には政治にも影響を与えています。

また、日本の状況に眼を転じてみると、少子高齢化に伴う人材不足に対応する外国人労働力の受入れ、急増する海外からのインバウンド観光客など、世界がグローバル化し、多様化している流れを身近に感じる場面が増えてきています。

この様な状況を背景にした今後の世の中を予測し表現する上で「VUCA」という言葉がよく参照されます。VUCAとはV: Volatility (流動性)・U: Uncertainty (不確実性)・C: Complexity (複雑性)・A: Ambiguity (曖昧性)の頭文字を取ったものです。まさしく政治・経済・社会がグローバル化し、日本も含めて世の中が新たな動きを見せている状況を考えると、今後の世界やその変化においては、様々な動きや要因が複雑に連動し、絡み合い、その背景や原因を読み解くことが容易ではない状況にあると言っても過言ではありません。

今後の世界にその様な状況が見込まれる時代であるからこそ、国際学部の存在価値や意義がより一層大きくなっています。国際学部は2010年の創設以

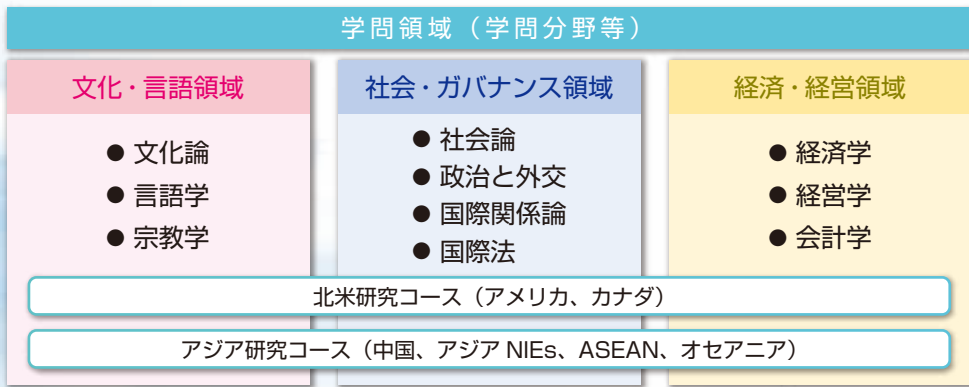
来9年が経過しますが、グローバルな視点や発想にたった様々な学びや経験の機会を提供しています。

国際学部では「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的として位置づけた上、具体的には

- ①文化・言語 ②社会・ガバナンス ③経済・経営の複数の領域から学際的な学びを深めるとともに、アジア研究コース・北米研究コースを設けることで日本と関係の深い地域の事情や課題に関する理解力・分析力を深める
- 学部生全員が在学中に海外留学を経験することに加え、大学内に設けられているその他の国際貢献活動など海外経験の場を活かして、外国語能力や異文化共生力を高める

ことを通して、国際学部の「国際性の涵養」という理念の実現、そして国際性と人間性を備えた人材の育成に向けた取り組みを実践してきています。

国際学部では多くの外国人留学生が学び、また留学・国際貢献活動など海外での経験が非常に身近にあります。世界やその動きを肌で感じることできる国際学部はこれから世界を舞台に活躍を目指す、或いは世界を相手に仕事をする希望を持っている皆さんには理想的な環境です。ぜひ、このパンフレットをご参考の上、国際学部を皆さんの今後の志望として考えてみて下さい。同じ仲間として一緒になって国際学部での貴重な学びや経験を高めてゆきましょう。



多方面での活躍
P10

学部で培った様々な学びや経験を背景に、様々な企業に就職し、グローバルに活躍する

専門性の追求
P10

学部での学びの成果を基に、大学院(国際学研究所)において、より深く専門性を究める

連続講演会

学外から国内外の著名人・有識者を招いた連続講演会を開催し、新たな学びの場を広げる

P9

築立ち

大学院
(国際学研究所)

P7.8

実践活動

国際社会貢献活動、国連ユースポランティア等を通じ、海外の現場に身を置いて実践経験を養う

P5.6

留学生との交流

学部在籍する留学生との密接な交流により、国際的な感覚や感性を磨く

海外留学

在学中に海外の大学に長期・中期・短期の留学を経験、語学力や異文化理解力を高める

P3,4

学び

文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営の様々な領域から多面的に学びを深める

P1

国際学部入学

みやた たくと
宮田 拓人 さん (3年生)
横浜国際高等学校 出身 (神奈川県)

【留学先】ネバダ大学リノ校 (アメリカ)
【留学期間】2017年8月下旬～2017年12月下旬



留学先にアメリカを選んだ理由

「留学といえばアメリカ」「ハイレベル」「国際交流」この3つの軸で留学先選びを始めました。ネバダ大学は大学ランキングでTire1に入っており、質の高い授業を受ける環境が整っています。そしてここには世界からも学生が集まります。その数は100カ国以上であり、真の異文化交流ができるネバダ大学は最適な環境でした。

「留学といえばアメリカ」という軸に疑問を持つかもしれませんが、結論から言うとこの軸は重要でした。私は海外経験がなく、アメリカでドラマみたいな生活をしてみたいという想いだけを抱いていました。今思うとこの憧れの気持ちが現地での生活を充実させたと思います。留学では多くの困難に直面しますが、乗り越えることができたのは憧れの地で生活しているという気持ちがあったからです。私のように海外経験がほとんどない人にとっては最初の国選びが難しいと思いますが、憧れの軸を大切にすることで悔いのない留学生活を送ることができると思います。

くりもとともこ
栗本 友子 さん (3年生)
大阪教育大学附属天王寺高等学校 出身 (大阪府)

【留学先】ウーロンゴン大学 (オーストラリア)
【留学期間】2018年2月下旬～2018年下6月下6中旬



留学先にオーストラリアを選んだ理由

高校生の頃からいつかオーストラリアかアメリカに交換留学に行きたいという夢を持っていました。私が応募する時期はアメリカの大学の募集が少なかったため、オーストラリアに決めました。私は都心部よりも少し離れた落ち着いた環境で学びたいと考えていました。そこでシドニーから電車で一時間半ほど南に行ったところにあるウーロンゴン大学では、オンとオフをしっかりと切り替えながら留学生活を送れるのではないかと考えました。また、あらゆる世界大学ランキングで上位に入っていることから国際的にも高い評価を受けていることを知り、この大学に決めました。実際、大学は海や緑に囲まれており、また建物は近代的でとても良い環境で充実した留学生活を送ることができました。



留学生活で学んだこと

私は留学を通して「挑戦することの大切さ」を再認識できました。「挑戦」これはとりあえずやってみるという意味です。もちろん、自分の世界を広げるために、能動的に新しいものに挑戦することは大切です。しかし、それは自分の知識範囲内の新しい興味分野だと私は思いました。本当に自分の知らない分野に出会う時は、他人から影響を受けた時だと思います。私は新しい言語を作っている人に出会いました。新言語を作るなんて非現実的だとも思いますが、とりあえず誘われたからやってみよう精神で取り組みました。意外にも、実際に取り組んでみるとこれが面白かったのです。新しいものを創り上げることの面白さに気づき、やってみよう精神が自分の意外な一面の発見につながりました。

海外には面白いことをやっている人がたくさんいます。張り切ってやりたいことに集中するのもいいですが、時には力を抜いて受け身になることで新しい自分に出会えると思います。

今後の目標

アメリカ留学を通して、私は新たな自分の一面を発見したと同時に日本のすばらしさも再認識できました。日本を世界に発信したい、たくさんの人が日本に来てほしいと思い、私はゼミで「訪日外国人客数4000万人達成のために」というテーマを設定しました。

「海外旅行といえば日本」いつかこのような世界を作れるよう、残りの学生生活を有意義に過ごしたいと思います。

留学生活で学んだこと

今できる事を精一杯やる事、そして一期一会を大切にすることを改めて学びました。私の寮は約八割がアメリカやオーストラリアのネイティブスピーカーだったので、最初の頃はコミュニケーションがうまく取れず、馴染めずつらいこともたくさんありました。しかしそこで諦めることなく、日々小さな目標を掲げて達成していくことで自分に自信を持って取り組むことを心がけました。学校ではECG (English Conversation Group) と呼ばれる、ノンネイティブが多く通う会話サークルのようなものにほぼ毎回参加して英語の上達に努めました。またECGで出会った友達と休日に一緒に出掛けたり、勉強したりと、いろいろな面で支えてもらい充実した留学生活を送ることができました。大変なことも多くありましたが、自分ができる事を行動に移し、その中で友人たちに支えてもらいながら勉強も遊びも両立させることができ、本当に楽しく満足のいく留学ができました。

今後の目標

帰国後は関学に来ている留学生の授業をサポートするボランティアに何度か参加しました。留学生に安心して楽しく留学をしてもらえるように、今後もそのような活動に参加していきたいと考えています。また国際学部でありながらも経営学研究のゼミに所属しています。財務諸表の分析など数字と向き合い少し難しい内容ですが、就職後も役に立つ能力をゼミでしっかりと身に付けていきたいと思っています。





いまざと ゆうか

今里 優夏さん (3年生)

茨木高等学校 出身 (大阪府)

【留 学 先】 国立台湾大学 (台湾)

【留学期間】 2017年9月中旬～2018年6月下旬



留学先に台湾を選んだ理由

台湾留学の決め手は、アジアへの興味関心、留学目的との相性、習得したい語学の3点でした。まず、国際学部での授業を通して、現在の日本にとってアジアが政治的、経済的に重要性が近年高まっていることを学び、アジア圏に留学しようと決めました。そして、数あるアジア圏の国々の中でも、私の留学目的に一番あっていると感じたのが台湾でした。私が最も重視した留学目的は、日本を日本の外から客観的にみて、日本についてより深く知ることでした。歴史的に日本との関わりが深い台湾では、様々な視点で日本を外から眺める機会が多くあるだろうと考え、決断に至りました。さらに、中国語を日常的に学べることも台湾に決めた理由の一つです。非英語圏に留学するからには、留学先の公用語を学びたいと考えていました。言語を習得することは容易ではなく、高いモチベーションが必要であると考えたため、有用性の面で意欲的に学習できると感じた中国語を学ぼうと決意しました。

今後の目標

帰国後、「世界の中の日本」をテーマに掲げるゼミで日本社会、日本人、日本の特異性について学んでいます。留学中に日本を客観視してわかったことを学術的根拠で裏付け、日本をさらに深く理解できていると感じています。将来は、国際的な視点からみた日本や日本の対外関係を理解した上で、日本ならではのモノを世界に発信したり、売り出したりできる職につきたいと考えています。そのためにも、留学中に身につけられた行動力を生かして、様々な場所・人に出会い、限られた大学生活をより充実したものにしていきたいです。

留学を通して学んだこと

留学を通して一番の学びは、行動することと新たな人や場所に出会うことの重要性です。留学前の私は、新しいコミュニティに1人で飛び込むことにためらいを感じ、なかなか一歩を踏み出せないでいることが多々ありました。しかし、限られた留学期間を最大限有効に使い、様々なことを学ぶためには、外に出ているものを見て、いろんな人と話すことが1番必要だと考えました。そして、言語交換のパートナーを探して毎週日本語と中国語でおしゃべりをしたり、現地のダンスサークルに入って一緒に作品を作ったりなど、新しい場所や人に出会う機会をたくさん作ってきました。最初は不安や失敗もありましたが、実際に行動してみたら、それ以上に学びや楽しさがあると分かりました。10か月という限られた期間に、全く新しい環境に身を置いたからこそ、自分を変化させ、勇気をもって行動ができたと思います。

留学生活で得たこと

留学生活では豊かな暮らしを支える制度を学びつつ体験し、生活スキルを身につけ、たくさん旅をし、素敵な仲間と出会いました。授業では社会福祉や労働環境、異文化コミュニケーションについて学び、北欧の自由な教育環境で授業を受けることができました。授業は講義よりもグループワークやディスカッションが多く、少人数で学びを深めていきました。留学生より現地学生と友人になる方が難しいとよく言われますが、スウェーデン民俗音楽サークルに入れてもらったことでそこを克服できました。毎週夜遅くまでセッションしたり、ダンスパーティで演奏したりと、まさか自分が留学先で音楽生活を送るとは思っていませんでした。また留学期間を延長し現地の教育デザイン会社で教育環境を生み出す側をインターン生として経験できました。

夏は一日中明るいですが、冬は寝坊すると太陽とすれ違うような国です。楽しむときは楽しむという精神が根付いていました。サウナでお酒を飲むことやザリガニを食べるなどクレイジーな一面を知れたのも良かったです。人生を生き急ごうとせず、休息を大切にスウェーデンが大好きになりました。

今後の目標

留学から帰ってきてからは、教育環境やイノベーションに加え、新たに映画や文学など表象文化が世界をどう表してきたかなど文化の裏側に興味を持つようになりました。今後も軸を持ちつつ興味の赴くままに行動して幅のある人間になりたいです。

ひろつ しほ

廣津 志保さん (3年生)

東明館高等学校 出身 (佐賀県)

【留 学 先】 リンショピン大学 (スウェーデン)

【留学期間】 2017年8月上旬～2018年3月下旬



留学先にスウェーデンを選んだ理由

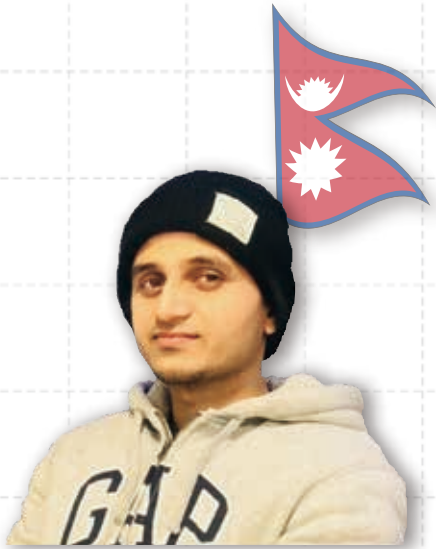
旅行先または留学先として有名で人気なところではないけれど、住んでみて魅力を感じたいと思った国が、IKEAのイメージが強い、スウェーデンでした。私の興味があった北欧の教育や社会福祉制度、ワークライフバランスなど幸福度が高くイノベーションも多く生まれる北欧諸国の良さは、留学生活で体感することが近道だと思いました。現地での留学生活を想像できないからこそ行って自分で発見できる楽しみを期待でき、またほとんどの国民が第二外国語として英語を流暢に話せることも大きな要因でした。



外国から来た仲間達
Your Friends from Abroad on Our Campus

Questions

- Q1. なぜ、関西学院大学で学びたいと思いましたか？
Q2. 関西学院大学での学生生活はどうですか？
Q3. この経験を活かして、将来は何をしたいですか？



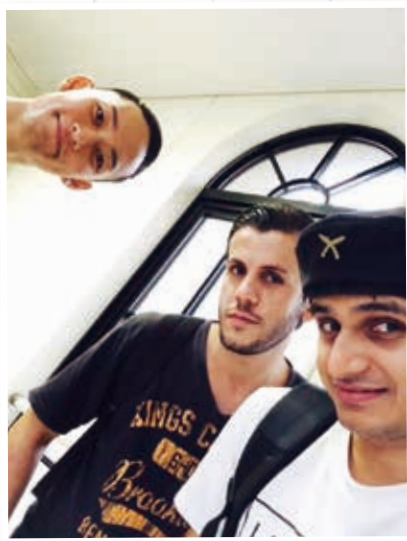
アンジャン・バスコタ
Anjan BASKOTA さん
国際学部4年生
Ambition Academy 出身
(ネパール連邦民主共和国)



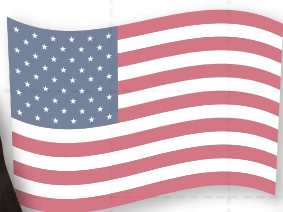
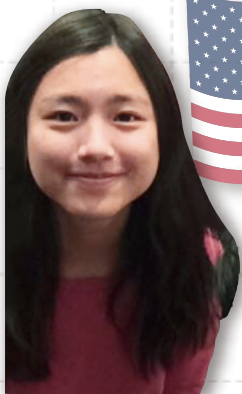
A1. Studying in Kwansai Gakuin University (KGU) has made me more enthusiastic about my studies. I feel wonderful and honoured at the same time as getting a chance to be indulged in a multicultural International environment where I found myself exploring and propelling forward towards my goals. The university, with the perfect location near the biggest city: Osaka, not only has a sound educational environment but also there are large selections of studies, good lectures, an excellent social life and luxurious facilities.

A2. I am enjoying my life at KGU. We have variety of interesting subjects, teachers are good and helpful, students from different nations having fun together, different events, cross cultural programs and so on. As I am interested in Asian economics and studies, I would like to learn more about International relations. In the future I would like to work and live in Japan where I can use my skills and experiences that I learn from KGU.

A3. I would not have received such an opportunity if I were in Nepal. I am honoured to have a chance to be a potential representative of my country. I am looking forward to enjoying my studies at KGU in the future. If you are planning for studying abroad and living in different culture, then your search is over. There is no doubt that KGU will be your best option.



国際学部には多くの外国からの留学生が在籍しています。国籍は様々ですが、皆一緒に日本に興味を持ち、上ヶ原キャンパスで勉学に励んでいます。そんな彼らへのインタビューを紹介してみたいと思います。彼らが何を考え、何を指向しているか。是非、参考にしてみてください。



グレース・ウェンシン ツアイ
Grace, Wenhsin TSAI さん
 国際学部3年生
 Saint Paul Lutheran High School 出身
 (アメリカ合衆国)



A1.

I choose to study in Kwansai Gakuin University, not only because KGU offers various great programs, but also it fits my career goals. School of International Studies (SIS) has courses with different areas or fields of studies, such as Linguistic, Economics, and Politics. Students can choose and modify their courses based on their own interests. I am really interested about Economics and Business, however, at the same time, I can also study about other subjects, such as International Relations, in SIS. It was also great to study in this diverse environment with beautiful campus.

KGU has many events for students to interact with each other, such as coffee hour or social gathering. In this diverse environment, I learned not only the school subjects, but also other student's cultures and experiences. Moreover, School of International Studies offers classes in English, however, it also requires students to take Japanese language classes. Under this system, I can study to improve both my English and Japanese proficiency. School of International Studies may be established for a long time, however, it has many good facilities, various courses, excellent professors. The professors are always available for students. On the other side, KGU provides many great programs, such as exchange program or UN volunteer program, in order to help students become World Citizens.

A2.

My life at KGU is great. Even though most of the courses I took were taught in English, I still have many chances to meet Japanese students and work with them. Students are very positive and eager to learn in the class. Many good facilities are easy to use, such as lounge. Students can gather in the lounge for study, relaxing, and playing. Moreover, there are plenty choices of club activity, which students can feel free to join. Libraries are also one of the places I loved in KGU. It is beautiful with plenty resources for students to use for either class materials or own study. The online databases for researches are also enough for students to use. Classes conducted in small size let me be able to have more interactions with other classmates and professors. Honestly, many of my friends feel wonderful to study at KGU as well. We all have a good time in the study environment KGU provides us.

A3.

I planned to work in an International company or corporation in Japan after graduated from KGU. The diverse environment in KGU will help me better understand one's culture in my chosen workplace. Moreover, the programs I wish to join in KGU can greatly help me to obtain the skills for my future career. University is the last step to prepare for future career. I appreciate the chances and opportunities that KGU provides me for me to prepare and plan my future.





いまぜき ななこ
今関 奈々子 さん (3年生)
長田高等学校 出身 (兵庫県)

派遣期間	2017年9月27日～2018年2月20日
派遣国	ネパール
派遣機関	Paragon Academy

国際社会貢献活動

私はネパールのParagon Academyという小学校で、5か月間小学校教員としてボランティア活動を行いました。この活動に参加しようと思ったきっかけは、小学校6年生のときに「トットちゃんとトットちゃんたち」という本に出会ったこと。発展途上国の存在を知り、いつかそこで、そこに住む人たちのために何かをしたいという思いを抱きました。

現地での業務内容は、小学校4年生～6年生の子どもたちへ日本語や日本文化を教えること。また、カリキュラムにはあるものの、実際には行われていない体育や音楽の指導も行いました。私の活動によって子どもたちに日本に興味を持ってもらうことが目標でした。日常生活ではホームステイを経験し、日本とは全



みやけ ゆうき
三宅 悠生 さん (4年生)
関西学院千里国際高等部 出身 (大阪府)

派遣期間	2018年9月25日～2月25日
派遣国	エジプト
派遣機関	UNRCO (United Nations Resident Coordinator's Office)

国連ユースボランティア

高校時代から将来国連やJICAなどといった国際機関に勤めたいと考えていた私にとって、この国連ボランティアプログラムは非常に魅力的であり、大学入学後このプログラムに参加し、国連機関での業務を経験することが私にとって一つの大きな目標でした。

現地ではUNRCO (国連常駐調整官事務所) というエジプトに存在する様々な国連機関を束ね、それぞれの国連機関の調整約として働く国連機関で働いていました。

私の主な業務は持続可能な開発を目指す2030年目標、通称SDGs (Sustainable Development Goals) の認知向上を目的とした企画の立案・実行又、International Volunteer Dayといったボランティア活動を推進する日に現地の国際赤十字とともに国内のボランティア活動を活性化させるイベントの企画運営といったものでした。限られた予算の中でどのような企画やイベント

国際ボランティアは、「国連ユースボランティア」と「国際社会貢献活動」の2つのプログラムからなります。両プログラムは、本学のスクールモットー「Mastery for Service」を体現する、創造的かつ可能な世界市民を育てることを狙っています。開発途上国での5か月間の活動は非常にやりがいがあり、自己成長を促進させます。多様な派遣先と活動内容が魅力のプログラムです。

国際学部 寄附講座 国際ビジネス総論

学外の様々な官庁・団体・企業による講義を通じ、国際ビジネスやその実態に関する学びや理解を深める

国際学部では、2018年の春学期(4月～7月)から新たに寄附講座として「国際ビジネス総論」を開講しています。この講座では、海外と様々な接点を持つ協賛企業各社に加えて、通商問題や国際金融に詳しい官庁・団体からも講師を毎回お招きし、オムニバス形式で授業を行なうことにより、企業各社の海外戦略や国際ビジネスの実情、日本の通商・

金融政策、海外の独特の制度や事情などについて学べる機会を提供し、グローバルな経済に関する知見や教養を高めることを目的としています。

この講座については、ご協力頂いている産経新聞の2018年9月4日付けの夕刊に関連の記事が掲載されましたので、その一部を引用・抜粋します。

「受講した学生からは、“就職活動を控え、ビジネスに必要なことを学ぶことができた”、“講座を通じ、経済学的な知見が身についた”などとする声が多く寄せられた。特に、“多くの企業がビジネスのみならず、国際的な社会貢献活動をしていることが印象的だった”や“社会的責任を果たす経営の重要性に気づかされた”という意見も聞かれ、国際ビ

く異なる生活環境や現地の習慣、子どもへのしつけに毎日驚かされていました。

この経験を通して学んだことは、発展途上国と言われるネパールにも、「日本よりいいな!」と思える面がたくさんあるということ。例えば、家族との時間をとても大切にするとこや、小学校4年生ごろから英語でのコミュニケーションができるようになるところなど。今まで日本から出たことがなく、「日本が一番!」という自分勝手な考えを持っていた私がなんとわがままでちっぽけだったことが。日本を離れ、日本を客観的に見ることによって気づいたことがたくさんありました。自分の価値観や考えがすべてではない、「郷に入れば郷に従え」を痛感した5か月間。今後の人生においても、相手を理解しようと努める姿勢を忘れずにいたいです。



を開けば現地民に国連の目標やボランティア活動に興味を持ってもらえるのか。どのようにすれば上司や政府に企画を通してもらえるのか。これらの事を常に考え続けながら5か月間仕事に励み続けました。その結果、最終的にいくつかのプロジェクトを実行段階に持って行く事に成功しました。

国連機関での時間は私にとって人生で最も充実していた時間の一つでした。派遣中苦労や困難は数多くあったものの、家族のような同僚たちと共に国際開発の仕事に熟した経験は私にとって本当に人生の宝物です。今回の経験で得た知識や反省点を基に自身をさらに高め、引き続き自身の目標である国連職員を目指していければと思います。



実践活動

ビジネスをめぐる認識を新たにした学生も少なくない。

担当した木本圭一教授は、“国際学部生をはじめ当講座の受講生は海外での活動に関心が高く、在学中に企業各社のビジネスや国の海外政策に触れる機会を得たことは大変有意義であった。当講座で学んだことを今後大いに役立ててほしい”とエールを送った

また、この講座の特別講義として、国連開発計画（UNDP）の親善大使を務める女優の紺野美沙子さんが2018年7月にご来校され、「UNDPの役割と親善大使として見たこと・感じたこと」と題したご講演をされています。



2018年9月4日産経新聞夕刊より引用



過去79回の講演実績

国際学部では、学部内での様々な授業や講義に加えて、学外から政界・官界・財界の著名人、文化人を講師としてお招きした「連続講演会」を開催し、毎回、国際学部の数多くの学生、更には他学部の学生が参加しています。

この「連続講演会」では、講師の方々から、注目すべき国内外における最新の政治・経済・社会の動きやその影響、また将来、世界や社会へ羽ばたいてゆく学生に対する期待などについて、講師ご自身のご経験やご見識をふまえながら、熱のこもったご講演を頂き、学生にとっても、大学の授業や講義とは異なる視点から世界や社会を理解し学ぶ貴重な時間になっています。

これまで「連続講演会」は79回開催していますが、主な講師・講演内容は以下の通りです（なお、役職名はご講演段階でのもの、記載順はご講演の日時順）。

《これまでの主な講師と講演内容》

政 界 鳩山 由紀夫 元首相  「今こそ、官を開け、国を開け」			森 喜朗 元首相  「楽苦美(ラグビー)人生」			小泉 進次郎 衆議院議員  「3.11後の日本」								
政 界 平野 博文 文部科学大臣  「グローバル人材の育成に向けて 大学に期待すること」			小野寺 五典 元防衛大臣  「我が国の防衛と安全保障」			官界・国内 中尾 武彦 財務省国際局長  「グローバル金融危機と新しい国際金融秩序」			田中 明彦 JICA 理事長  「世界の中の日本 — 日本の目指す国際協力—」			谷内 正太郎 元外務省事務次官  「今後の日中間係について」		
官界：国内 本田 悦朗 内閣官房参与  「アベノミクスの核心」			齋木 尚子 外務省 国際文化交流 審議官  「パブリック・ディプロマシー」			官界：海外 ディビッド・ウォレン 駐日イギリス 大使  「Britain and Japan — Similarities and Differences」			シン・カクスウ 前駐日韓国大使  「21世紀の韓日関係と若者たちの役割」			ジョン・V・ルース 駐日アメリカ 合衆国大使  「日本の絆 — 日本の若い人たちに 期待すること—」		
官界：海外 ディーパ・ゴパラン・ワドゥウ 駐日インド大使  「India and Japan Relationship」			ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン 駐日ドイツ連邦 共和国大使  「ドイツ再統一から25年 — ドイツと欧州の立ち位置とは—」			財界：国内 小林 陽太郎 富士ゼロックス 元会長  「人間的魅力をつくらう」			中川 勝弘 トヨタ自動車 相談役 (前副会長)  「グローバル時代を生きる」			宮内 義彦 オリックス株式会社 取締役 兼 代表執行役会長  「皆さんの世界とグローバル時代」		
財界：国内 市川 晃 住友林業 社長  「日本の森林資源はいま。— 資源活用 の新たな認識と木造建築の今後—」			安瀬 聖司 ピザ・ワールドワイド・ジャパン 代表取締役社長  「グローバル人材とは？ — グローバル 企業で働いて分かったこと—」			財界：海外 アルフォンソ・G・ズルエッタ 日本イーライリリー 社長  「Keys to Success for Japanese Talents in a Foreign Global Company」			ディビッド・R・スミス ジョンソン・エンド・ジョンソン・ ビジョンケア・カンパニー 代表取締役  「Think "Local", Act "Global"」			グレン・S・フクシマ エアバス・ジャパン 会長  「How Can Japan Develop Global Leaders?」		
財界：海外 アズラン・オスマン・ラニ エアアジアX CEO  「LCC 経営者から見たアジアの航空 マーケットの将来展望と日本」			マーティン・イエッター 日本アイ・ビー・エム株式会社 代表取締役社長  「次世代のリーダーとなる皆さんに 期待すること」			文化人 村尾 信尚 日本テレビ系列 News Zero メインキャスター  「日本の針路 — 何が争点になっているか—」			クロード・ブルボニエール シルク・ドゥ・ソレイユ ディレクター  「何故、世界最大のサーカス・カンパニーがケベックで生まれたのか」			紺野 美沙子 女優・国連開発計画 (UNDP) 親善大使  「UNDP の役割と親善大使として 見たこと感じたこと」		

就職先 **ネスレ日本株式会社**



私にとって、国際学部で過ごした4年間は「自分のやりたいことに挑戦できる時間」でした。高校時代からの目標であったカリフォルニアの大学への交換留学をはじめ、日本語パートナーとしての留学生サポートなど、今振り返るとこの環境だけ

さい はるか
祭 巴留華 さん (4年生)
住吉高等学校 出身 (大阪府)

らこそできたことが沢山ありました。特に交換留学中は、自分一人だけが日本人という環境で現地の学生と同じレベルの授業についていかなければならない状況であり、楽しいばかりではなくとも一番自分が成長できたと感じる経験でした。また、私の4年間は、学内での学びのみではなく、アルバイトや就職活動、友人との海外旅行なども含めてはじめて充実したものであったと言えると思います。挑戦したいこと、充実のカタチは人それぞれです。皆さんもこの国際学部で様々なことに挑戦し、自分らしい大学生活を過ごしてください！

就職先 **三菱商事株式会社**



「国際学部で過ごした4年間は、世界を歩むための基礎となりました。それを支えたのは、刺激的な学生の存在です。国際学部には、自分で考え行動する、強い意志を持った学生が集います。

留学必須の学部として、学生は留学の形式、留

まつおか ゆうだい
松岡 裕大 さん (4年生)
関西学院高等部 出身 (兵庫県)

学先、留学期間などそれまで経験しなかった意思決定に迫られますが、自分と向き合い、将来を見据え、最終的には自分自身を納得させる理由によって決断を下します。意思決定を下す重要性を認識し、明確な理由を持って行動に移す国際学部生は多くいます。そんな意志ある学生と切磋琢磨できる環境が、世界での活躍を夢見る今の私を形作ったと思います。

国際学部には、様々な活動に従事する学生とそれを支えてくださる職員・先生方を通して、無限の可能性が広がっています。皆さんの、国際学部での素晴らしい出会いを応援しています。

就職先 **日本電産株式会社**



国際学部には、日本国内にとどまらない多くの挑戦の機会が溢れています。私は在学中には、北欧ノルウェーのオスロ大学で約1年間、交換留学生として学んでいました。

ノルウェーでの留学生活は、全ての体験が新

たなか ひなこ
田中 日奈子 さん (4年生)
帝塚山学院高等学校 出身 (大阪府)

鮮・驚きであり、困難なことも多々ありましたが、私の人生の中で貴重な学びの場となり、また自分自身の成長に大いに繋がった、非常に充実した時間でした。

国際学部には国内外問わず、自身のステップアップに繋がるプログラムが数多く用意されています。そのような機会を積極的に活用して新たな環境に飛び込むことにより、自分の可能性を広げていただければと思います。皆さんの国際学部での学びが充実したものになることを祈っています。

就職先 **株式会社日立製作所**



国際学部を卒業する今、自身の4年間で振り返ると、選択肢の多さと周囲の多様性が、国際学部の素晴らしい特徴であったと感じます。国際学部では、政治・経済・文化の分野から、多様な授業を選択することができ、学部の枠組みにとらわれる

ふるしばりき
古芝 力樹 さん (4年生)
西宮 (県立) 高等学校 出身 (兵庫県)

事なく関心を自由に広げる事ができました。また、留学や海外研修と学部での学びの関連性が強く、多様な海外プログラムを選択しやすい事に加え、そこから得た経験が国際学部では非常に活かされやすいです。その為、共に国際学部で学んできた仲間達は皆、各々違った関心を持っていると同時に、世界中で様々な経験をしており、日々多くの刺激を受けながら4年間を過ごす事ができました。自ら4年間の大学生活を設計する事は、自分の未来に対し責任を負う事になります。自身の強い意思を持って、国際学部で積極的に未来を切り拓いて下さい。

大学院 (国際学研究科)

《 双日株式会社で働く卒業生 》



ばん はるな
伴 運奈 さん
国際学研究科 博士課程前期課程修了

国際学部では文化、政治、経済等のあらゆる側面から世界を見るための知識や経験を得ることができました。学部中には学生団体の活動としてラオスの学校建設支援に携わっており、交換留学では隣国のタイに行きました。そこで東南アジアの発展と歪みを垣間見たことから、開発の分野を突き詰めるべく、大学院では教育開発に的を絞り、ラオスの初等教育における民族

親和性の影響を研究テーマに取り組みました。現在勤めている総合商社では、日本、世界のあらゆる動きを敏感に捉え、事業を開発、推進していく事に携わっています。特に私の所属するエネルギーの分野は、人々の生活に不可欠であることから、事業には社会的、経済的、文化的価値が求められます。多様な視点から一つの物事を深掘りしていくことを研究を通して学べたことは、仕事を上です非常に意義深い経験となりました。

今後もジェネラルな知識と特化された軸を持ち、仕事を通して、日本を含む世界の発展に貢献していけたらと思います。

《 大学教員として働く卒業生 》



えがき なるほ
江崎 那留穂 さん
国際学研究科 博士課程後期課程修了

博士課程後期課程では、南アジアにおける最貧国の一つとして知られるネパールを対象に、公立学校と私立学校の教育格差問題に着目し、個々の子どもたちの「質の高い教育」を求める就学フローの実態や、2015年に同国にて発生した M7.8 の大地震が子どもたちの就学にもたらした影響について研究しました。現地調査では、調査計画の作成からコーディネーターや宿泊施

設の手配まで全て自身で行い、膨大な量のデータ収集や英語でのインタビューを実施するので、多大な時間と労力を費やしますが、現場に軸足を置いた研究にやりがいを感じながら努めてきました。本研究科において様々な分野でご活躍されている先生方からご指導いただきながら研究に邁進する中で、研究の面白さや意義を改めて痛感したため、将来は教育開発を専門に研究を通して国際貢献できる人材になりたいと考えています。

国際学部の魅力

“Mastery for Service” を体現する世界市民

関西学院が「めざす人間像」

世界への視野
高い識見と倫理観
大きな志
他者への思いやり
確立した自己
行動力と存在感
社会変革の気概

編集に携わった国際学部生



みやた たくと
宮田 拓人 (3年生)
横浜国際高等学校 出身(神奈川県)

国際学部の魅力を感じられましたか？ここでは自分が思い描くキャンパスライフを過ごすことができます。国内国外問わず、貴重な経験ができる国際学部で共に楽しみましょう！



ひろつ しほ
廣津 志保 (3年生)
東明館高等学校 出身(佐賀県)

個性豊かでお互いを認め合う仲間との出会いや、数多くの分野から授業を選択出来ることなど、国際学部だから簡単にできる経験が多く、視野を十分に広げられる贅沢な学部です！



くりもと とちこ
栗本 友子 (3年生)
大阪教育大学附属天王寺高等学校 出身(大阪府)

国際学部では、日々の生活や留学で出会う個性豊かな仲間の中で自分を成長させることができます。志の高い仲間と囲まれながら、充実した四年間を過ごしたい人におすすめの学部です！



いまざき ななこ
今関 奈々子 (3年生)
長田高等学校 出身(兵庫県)

自分の興味のある分野をとことん学べるのが国際学部のステキなところですよ。普段の授業はもちろん、留学や様々な仲間との出会いを通して、視野を世界へ広げてみませんか？



いまざと ゆうか
今里 優夏 (3年生)
茨木高等学校 出身(大阪府)

多様な学問、海外プログラム、そして個性的で刺激的な仲間との出会いなど、成長への機会が溢れているのが国際学部です。ぜひ国際学部で欲張った学生生活を送ってみませんか？



みやけ ゆうき
三宅 悠生 (4年生)
関西学院千里国際高等部 出身(大阪府)

世界中から集まる留学生や個性豊かな人との出会いが多く、常に刺激的な日々を送れるところがこの学部の非常に大きな魅力です！国際学部の“特殊な”環境で最高の大学生活を送りましょう！

担当・監修教員

あつみ ひろゆき
渥美 裕之 教授

関西学院大学の構想「国際性豊かな学術交流の母港『グローバル・アカデミック・ポート』の構築」が、平成26年度文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業(タイプB: グローバル化牽引型)に、採択されました。

http://www.kwansei.ac.jp/s_is/